

新型コロナウイルスというかつて経験したことのない恐怖に、私たちの日常は一変しました。四月には「緊急事態宣言」が発令され外出自粛等で日常生活に多大な影響を受けました。現在宣言は解除されたものの、感染の恐れが消えたわけではなく私たちの行動も慎重にならざるを得ない状況です。日常生活に多大な影響を受けられている会員の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

千葉県俳句作家協会の行事も昨年秋の千葉県に襲来した台風により、俳句大会を中止して以来、二月に行われた新年交流会は辛うじて開催出来たものの、五月に開催を予定した「令和二年度の通常総会及び新緑交流会」はコロナウィルスの感染予防が心配されることから中止を余儀なくされました。これに伴い「第34回協会賞」の贈賞式も延期となりました。受賞者及び関係者の皆さんにもご心配、ご迷惑をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。今後予想される第二波、第三波を考えますと今後の行事計画の確定ができないことも心痛の思いであります。

私たちが志向する俳句の世界は昔から「座」の文学とも言われているように、人の和をもつて始まり、和をもつて終わるとされています。お互いに膝を交えることで、お互いの詩情を誘発して句が生まれるのであります。

俳句の本来の魅力は、「座」を深めることになりますから、コロナ対策で言われる「三密」とは自ずと矛盾するものであります。やはり私たちの健康が第一であり、コロナが終息するまでは我慢をしなければなりません。

千葉県俳句作家協会でも大会の句会に変わるものとして「文音句会」を行い多くの方の参加をいただきました。このようにファックスやインターネットによるネット句会なども人と人とが接触せずに句会ができることから、句会での勉強になることと思えます。

コロナウイルスの感染を防ぐには、もうしばらくの辛抱が必要であるようですが、こんな時こそ俳句を志向する人たちは、ポジティブな気持で向き合っていかなければならないと思えます。